

海外ワークショップ・セミナー報告

報告者：池田玲子・神村初美・岩田夏穂

| | | |
|----|----------------|--|
| 1. | 日程 | 2015年 05月5日(火) |
| 2. | 地域 | インドネシア ジャカルタ |
| 3. | 担当者(人数・役割) | 講演：池田玲子(鳥取大学)・神村初美(首都大学東京) ワークショップ：池田玲子・岩田夏穂(政策研究大学院大学)・神村初美(首都大学東京) |
| 4. | 形態 | 講演・ワークショップ |
| 5. | 主催 | 国際交流基金ジャカルタ日本文化センター インドネシア日本語教育学会ジャボデタベック支部共催 |
| 6. | テーマ(タイトル) | 第1回 「インドネシア日本語教師対象の日本語教育の協働学習研修会」 |
| 7. | 内容の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ◆講演(池田玲子)「グローバル時代の人材育成ー日本語教育のピア・ラーニングー」 ◆ワークショップ(池田玲子・岩田夏穂・神村初美) <ul style="list-style-type: none"> ピア・ラーニング授業体験①(素材：4コママンガ) ピア・ラーニング授業体験②(素材：昔話) ピア・ラーニング活動デザイン体験(素材：新聞・雑誌の写真) ◆講演(神村初美)「ピア・ラーニングを介護の専門読解に用いるーそれぞれの読みへの対応ー」 |
| 8. | 参加者(人数・背景・声など) | 31名(インドネシア日本語教育学会ジャボデタベック支部会員、国際交流基金派遣専門家、同講師他) インドネシア人教師と日本人教師が約半々でした。 |
| 9. | 担当者の内省 | <p>・ジャカルタでのワークショップを終えました。とくにインドネシアでは介護看護の話題がホットなので、30分は神村さんにピア・ラーニングとの関連のところで話をしてもらいました。とても話好きなインドネシアの国民性がピアに合っていると思いました。日本教師とインドネシア教師との協働活動では、どのグループもほとんど抵抗ないという様子でした。ディスカッション課題として考えていただいたものは、現地の特徴を含んだ予想外なものでした。ご自身の教室で実施してみようと思うという声も聞かれました。</p> <p>・EPAによる看護師・介護福祉士候補者に対する現地での日本語教育を担当されている方々もおいでになり、まさにインドネシアにおけるホットな分野であることを実感した。</p> <p>・しきりにうなずきながら、熱心に聞き入ってくださる姿勢や、ピア活動の際の、「時間が足りない！」といった声に、インドネシアにおける協働学習の「これからの可能性」を感じた。</p> <p>・今回のワークショップの活動デザイン体験では、日本で用意したものではなく、現地で調達できる新聞や雑誌に載っている写真を素材として使ってもらうことにしました。会場に持っていくものを選ぶときは、なるべくいろいろな解釈ができたり、</p> |

| | | |
|-----|--------|--|
| | | <p>インスピレーションが得られたりするものになりましたが、中には、ごく普通の海岸風景のものもありました。参加者の方々は、本当にコミュニケーションに積極的で、和気あいあいと活動に取り組んでくださり、活動デザインの成果は、素晴らしいものでした。全体共有でのグループごとの発表では、素材をスクリーンに映しながら、作った活動について説明していただきましたが、上述の海岸風景の写真も、私たちが想像できないようなすてきな物語の活動に変身していて、びっくりいたしました。このようなピア活動のアイデアを、国を超えて発信・共有できるようにしないとイケないと思いました。</p> <p>・協働実践研究会ジャカルタ支部の活動が、今回のワークショップ後に集まった有志の方々によって開始されました。まずは、9月開催のインドネシア日本語教育学会 (ASPBJI) ジャボデタベック支部年次セミナーでの発表に向けて準備を進められるとのことです。これからの展開が楽しみです。</p> |
| 10. | 次回への課題 | <p>・(小さいことですが、) ピア・ラーニングに対する期待と不安を書いていたポストイットをホワイトボードに貼るのですが、貼ったそばからはらはらとはがれてしまう...これは、今回だけではなく、別のところでも同じことがありました。改善せねばと思いました。</p> |

会場での様子



ピア・ラーニングへの「期待」と「不安」の前で微笑む池田先生。



素材を写しながらグループで作った活動の内容を説明する参加者のみなさん。



みなさん、ありがとうございました！